

承認番号	錠5mg	22000AMX01146000
	錠10mg	22000AMX01145000
薬価収載	2008年7月	
販売開始	2008年7月	

持続性選択H₁受容体拮抗剤
日本薬局方 エバスチン錠
エバスチン錠 5mg「CH」
エバスチン錠 10mg「CH」

【貯法】
室温保存、気密容器
【使用期限】
外箱に表示の
期限内に使用すること。

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】
本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【組成・性状】

販売名	エバスチン錠5mg「CH」	エバスチン錠10mg「CH」
成分・含量 (1錠中)	日局 エバスチン5mg	日局 エバスチン10mg
添加物	部分アルファー化デンプン、結晶セルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、クロスポビドン、ステアリン酸マグネシウム、ヒプロメロース、タルク、酸化チタン、マクロゴール6000、カルナウバロウ	
剤形・性状	白色のフィルムコーティング錠	片面割線入りのキャブレット型の白色のフィルムコーティング錠
外形		
大きさ(mm)	直径:6.1 厚さ:3.1	長径:10.2 短径:5.1 厚さ:3.7
重量(mg)	90	180
識別コード	ch183	ch184

【効能・効果】

蕁麻疹
湿疹・皮膚炎、痒疹、皮膚癢痒症
アレルギー性鼻炎

【用法・用量】

通常、成人には、エバスチンとして1回5~10mgを1日1回経口投与する。
なお、年齢・症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

- 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)
肝障害またはその既往歴のある患者〔肝機能異常があらわれるおそれがある。〕
- 重要な基本的注意
(1)眠気を催すことがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転など危険を伴う機械の操作に注意させること。
(2)長期ステロイド療法を受けている患者で本剤投与によりステロイドの減量をはかる場合は、十分な管理下で徐々に行うこと。
(3)本剤を季節性の患者に投与する場合は、好発季節を考えて、その直前から投与を開始し、好発季節終了時まで続けることが望ましい。

3. 相互作用

本剤は、主として代謝酵素CYP2J2及びCYP3A4で代謝される。

併用注意(併用に注意すること)

薬剤名	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
エリスロマイシン	本剤の代謝物カレバステチンの血漿中濃度が約2倍に上昇することが報告されている。	カレバステチンの代謝が抑制されると考えられる。
イトラコナゾール	本剤の代謝物カレバステチンの血漿中濃度が上昇することが報告されている。	

薬剤名	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
リファンピシン	本剤の代謝物カレバステチンの血漿中濃度が低下することが報告されている。	カレバステチンの代謝が促進されると考えられる。

**4. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(1) 重大な副作用(頻度不明)

- ショック、アナフィラキシー：ショック、アナフィラキシーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、血圧低下、呼吸困難、喉頭浮腫等の症状が認められた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 肝機能障害、黄疸：AST (GOT)、ALT (GPT)、LDH、 γ -GTP、ALP、ビリルビンの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

(2) 類薬による重大な副作用

類薬(テルフェナジン等)で、QT延長、心室性不整脈(Torsades de pointesを含む)があらわれるとの報告がある。

(3) その他の副作用

	頻度不明
過敏症 ^{注)}	発疹、浮腫、蕁麻疹
循環器	動悸、血圧上昇
精神神経系	眠気、倦怠感、頭痛、めまい、しびれ感、不眠
消化器	口渇、胃部不快感、嘔気・嘔吐、腹痛、鼻・口腔内乾燥、下痢、舌炎
肝臓	AST (GOT)、ALT (GPT)、LDH、 γ -GTP、ALP、ビリルビンの上昇
泌尿器	排尿障害、頻尿
その他	好酸球増多、胸部圧迫感、ほてり、体重増加、月経異常、脱毛、味覚異常、BUNの上昇、尿糖

注) このような症状があらわれた場合には、投与を中止すること。

5. 高齢者への投与

1日1回5mgから投与するなど注意すること。[一般に高齢者では生理機能が低下している。]

6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

- 妊婦または妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合のみ投与すること。[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。]
- 本剤投与中は授乳を避けさせること。[動物実験(ラット)で乳汁中への移行が報告されている。]

7. 小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児または幼児に対する安全性は確立していない(使用経験が少ない)。

8. 臨床検査結果に及ぼす影響

本剤はアレルギー皮膚内反応を抑制するため、アレルギー皮膚内反応検査を実施する前は、本剤を投与しないこと。

9. 適用上の注意

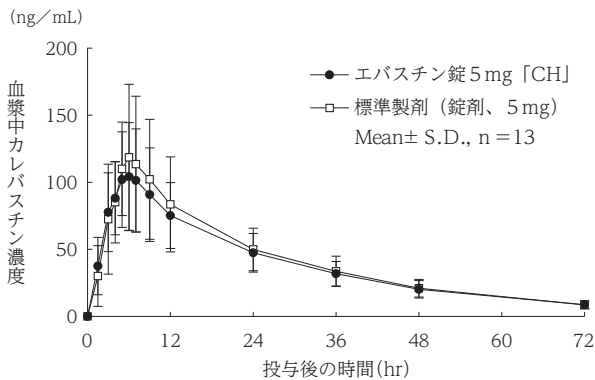
薬剤交付時：PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。(PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。)

【薬物動態】

1. 生物学的同等性試験

(1) エバスタチン錠5mg「CH」

エバスタチン錠5mg「CH」と標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ2錠(エバスタチンとして10mg)を健康成人男子に空腹時単回経口投与して血漿中活性代謝物(カレバスタチン)濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ(AUC、Cmax)について90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、 $\log(0.80) \sim \log(1.25)$ の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。¹⁾



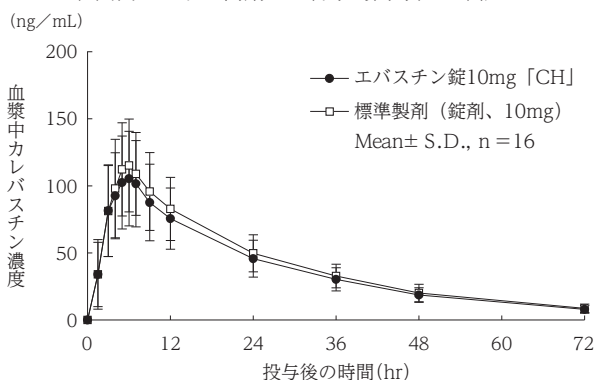
	判定パラメータ		参考パラメータ
	AUC ₀₋₇₂ (ng・hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)
エバスタチン錠5mg「CH」	2808.5±880.9	106.9±39.8	5.8±0.7
標準製剤(錠剤, 5mg)	2983.7±977.7	122.3±53.6	5.8±0.7

(Mean±S.D., n=13)

血漿中濃度並びにAUC、Cmax等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

(2) エバスタチン錠10mg「CH」

エバスタチン錠10mg「CH」と標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ1錠(エバスタチンとして10mg)を健康成人男子に空腹時単回経口投与して血漿中活性代謝物(カレバスタチン)濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ(AUC、Cmax)について90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、 $\log(0.80) \sim \log(1.25)$ の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。²⁾



	判定パラメータ		参考パラメータ
	AUC ₀₋₇₂ (ng・hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)
エバスタチン錠10mg「CH」	2732.2±804.0	108.0±35.5	5.9±0.6
標準製剤(錠剤, 10mg)	2957.5±809.7	118.0±34.6	5.8±0.8

(Mean±S.D., n=16)

血漿中濃度並びにAUC、Cmax等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

2. 溶出挙動

エバスタチン錠5mg「CH」及びエバスタチン錠10mg「CH」は、日本薬局方医薬品各条に定められたエバスタチン錠の溶出規格に適合していることが確認されている。³⁾

【薬効薬理】

ヒスタミンH₁受容体遮断薬。H₁受容体を介するヒスタミンによるアレルギー性反応(毛細血管の拡張と透過性亢進、気管支平滑筋の収縮、知覚神経終末刺激による痒痒、など)を抑制する。これに加えて、ケミカルメディエーター遊離抑制作用を有する点が、古典的抗ヒスタミン薬とは異なる。なお、本薬の作用の大部分は活性代謝物のカレバスタチンの作用である。⁴⁾

【有効成分に関する理化学的見解】

一般名：エバスタチン (Ebastine)

化学名：1-[4-(1,1-Dimethylethyl)phenyl]-4-[4-

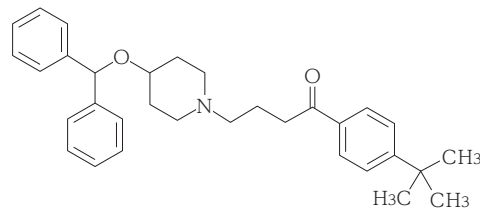
(diphenylmethoxy)piperidin-1-yl]butan-1-one

分子式：C₃₂H₃₉NO₂

分子量：469.66

融点：84~87℃

構造式：



性状：エバスタチンは白色の結晶又は結晶性の粉末である。

酢酸(100)に溶けやすく、メタノールにやや溶けやすく、エタノール(95)にやや溶けにくく、水にほとんど溶けない。

光によって徐々に帯黄白色となる。

【取扱い上の注意】

安定性試験

最終包装製品を用いた加速試験(40℃、相対湿度75%、6ヵ月)の結果、エバスタチン錠5mg「CH」及びエバスタチン錠10mg「CH」は通常の市場流通下において3年間安定であることが推測された。⁵⁾

【包装】

エバスタチン錠5mg「CH」

PTP：100錠(10錠×10)

エバスタチン錠10mg「CH」

PTP：100錠(10錠×10)、500錠(10錠×50)

【主要文献】

- 1)長生堂製薬株式会社 社内資料(生物学的同等性試験に関する資料)
- 2)長生堂製薬株式会社 社内資料(生物学的同等性試験に関する資料)
- 3)長生堂製薬株式会社 社内資料(溶出試験に関する資料)
- 4)第十六改正日本薬局方解説書
- 5)長生堂製薬株式会社 社内資料(安定性試験に関する資料)

【文献請求先】

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求下さい。
日本ジェネリック株式会社 お客様相談室
〒100-6739 東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
TEL 0120-893-170 FAX 0120-893-172

販売元

JG 日本ジェネリック株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

製造販売元

Chosei 長生堂製薬株式会社
徳島市国府町府中92番地